

令和二年度 岡山県高梁日新高等学校 選抜二期学力考査問題 国語

一、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

昔、玉川学園に住んでいた頃、我が家の庭は、毎年四月、桜の名所となった。私一人が、こんなに自分の眼を楽しませていいのかと、友人たちを招いて、友にも見せ、自分も楽しみ、灯をつけて、また、楽しみ、その桜を充分、①満喫したものだ。我が家の桜を見ているうちに、桜を、様々な気持ちで見る自分に気がついた。

玉川学園をひきはらってからも、東京の桜の名所を色々たずねたが、②コウキヨのお濠に面した千鳥ヶ淵の桜は、戦没者の③慰霊のため
のせいか、みごとだけれど、どことなく悲しい。外苑の桜についてふれるならば、それぞれのニュアンス、それぞれの喜びを含んで、一本一本の桜の樹が私に向かいあってくる。その細かな色合いが、こちらの感情と相まって、時には悲しく、時にはうれしく感じられる。いずれにしろ、人生の様々な姿と同じように、我が心の動きによって、桜の姿のありようが変わってくる気がする。その多様性が、④私にはおのれの心を映す鏡のように思われる。

ある年の四月の下旬、その頃、仕事場が代々木公園近くにあったので、仕事の手を休めて、代々木公園に散歩に出た。この公園は別に桜の名所というわけではない。むしろ若い人たちがサイクリングをやる場所だと思っていた。深い森のなかに、桜の木が点在していた。桜がいろいろな感情をもって私にせまってくるのが感じられた。外形は何の⑤変哲もない場所だが、そこにたたずんできると、えもいわれぬ悦びがこみあげてくる。そのような場所はめったにあるものではない。私はここへくると、ベンチに腰をおろして一時間ぐらい、桜吹雪が風について、たえず舞いおりてくるのを眺めていたものだ。地味な、おだやかな時の流れだが、そこには深みがある。この年になると、美しいものを見るたびに、③来年は生きながらえて、再びこの花が見られるかどうか、しきりに思われる。それは心惹かれるものであればあるほど、そういう感情になる。人生と桜とが、かほどに一致しているように思われるのは、そのはかなさの連想の故であろうか。いつぞや、家内が、その桜吹雪のなかを一人立ち去っていく私を見て、桜吹雪のカーテンの中に消えてしまった夫の姿を、人生の別れの時もこのようなものかと思ひ、④急に寂寥感がこみあげてきたと、話したことがある。

代々木公園でサイクリングをやっている若い人たちは⑥ムチュウでペダルを踏んでいる。おそらく桜吹雪がみごとなことにも目に入らないのであろう。それが若いということかもしれない。老人の⑦感慨とはおのずから異なるのも当然のことであろう。

（ 『最後の花時計』 遠藤周作 ）

問一、Ⅱ線部⑦～⑩のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

⑦		⑧		⑨		⑩
---	--	---	--	---	--	---

問二、Ⅰ線部①「満喫」の意味として本文に合うものを次から選び、記号で答えなさい。

- (ア) 存分に飲食すること (イ) 十分に遊ぶこと (ウ) 十分に楽しむこと

□

問三、Ⅰ線部②「私にはおのれの心を映す鏡のように思われる」について各問いに答えなさい。

(1) Ⅰ線部②で用いられている表現技法として適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- (ア) 倒置法 (イ) 擬人法 (ウ) 比喻法 (エ) 体言止め

□

(2) 筆者は「おのれの心」を何にたとえたか。答えなさい。

□

問四、Ⅰ線部③「来年は生きながらえて、再びこの花が見られるかどうか、しきりに思われる。それは心惹かれるものであればあるほど、そういう感情になる。」とあるが何と何を重ねてこのような感情になるのか。本文中から四字で抜き出しなさい。

□

問五、Ⅰ線部④「急に寂寥感がこみあげてきた」とあるが、どのような気持ちのことか。適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- (ア) 物悲しい (イ) 息苦しい (ウ) いとおしい (エ) はかない

□

受験番号

二、次の古文を読み、後の問いに答えなさい。

月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり。舟の上に生涯を浮かべ、馬の口⑦とらへて老いを迎ふる者は、日々旅にして旅を栖とす。古人も多く旅に①死せるあり。予もいづれの年よりか、片雲の風に④誘はれて、漂泊の⑦思ひやまず、海辺にさすらへ、去年の秋江上の破屋にくもの古巢を払ひて、やや年も暮れ、②春立てる霞の空に、白河の関越えんと、③そぞろ神のものにつきて心をくるはせ、道祖神の招きにあひて取るもの手につかず、ももひきの破れをつづり、笠の緒付けかへて、三里に灸すうるより、松島の月まづ心にかかりて、住めるかたは人に譲り、杉風が別墅に移るに、

草の戸も住みかはる代ぞひなの家表八句を庵の柱に掛けおく。

(注) 百代―長い年月 生涯を浮かべ―一生を浮かべて暮らし 漂泊の思い―あてのない旅に出たいという気持ち

破屋―あばら屋 心をくるはせ―心が落ち着かず 灸すうるより―灸をすえると 別墅―別荘 (『奥の細道』)

問一、〓線部の⑦⑧を現代仮名づかいに直し、すべてひらがなで書きなさい。

⑦
①
⑧

問二、―線部①「死せるあり」―線部②「春立てる」の現代語訳として適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ① (ア) 生きながらえた (イ) 亡くなった (ウ) 消えた
 - ② (ア) 春にならず (イ) 春が来ると (ウ) 春になって
- | |
|---|
| ① |
| ② |

問三、―部線③「そぞろ神のものにつきて心をくるはせ」の反対の意味の句を文中から抜き出さなさい。

--

問四、この作品の作者名を次から選び、記号で答えなさい。

- (ア) 松尾芭蕉 (イ) 清少納言 (ウ) 紀貫之 (エ) 紫式部 (オ) 鴨長明
- | |
|--|
| |
|--|

三、次の―線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- ① 一貫した経営方針。 ② 雨が降り大地が潤う。 ③ 災害による犠牲者。 ④ 悔恨の情がこみあげる。
- | |
|---|
| ① |
| ② |
| ③ |
| ④ |

四、次の―線部のカタカナを漢字で答えなさい。

- ① ショウトツ事故を起こす。 ② ホンヤク家を目指す。 ③ 社会フクシ士の資格を取る。 ④ 大衆エンゲキの公演を見る。
- | |
|---|
| ① |
| ② |
| ③ |
| ④ |

五、次の①～④の語が類義語になるように □ からひらがなを選び、□に漢字に直して答えなさい。

- ① 断行〓□行 ② 受諾〓□知 ③ 音信〓消□ ④ 永眠〓□界

しょう ・ そく ・ かん ・ た
①
②
③
④

六、次の①～④の□に漢数字を入れて四字熟語を作りなさい。

- ① □拳両得 ② 森羅□象 ③ □網打尽 ④ □載一遇

①
②
③
④